

吹田 アサ子さん

プロフィール

芦屋市在住。大阪生れ。1950年4月、女子プロ野球チーム「大阪スターズ」入団。その後、高島屋ソフトボール部へ。選手・マネージャーとして6年間活躍後、本業に専念。1989年本社人事部能力開発室長、93年退職。



ー吹田さんは1950年（昭和25年）に女子プロ野球に入っておられました。在籍されたチームは？

吹田：1950年4月から11月までの短い期間でしたが、「大阪スターズ」に在籍しておりました。ポジションは捕手/セカンドでした。子ども時代、兄たちとその友人の草野球チームで野球をする唯一の女の子で、男の子たちの剛球で遊んでいました（笑）。

ー入団はすべてお一人で決められたそうですね。

吹田：17歳のときに新聞で女子プロ野球の選手募集の記事を見つけたのです。誰にも相談せず応募を決め、入団テストを受けました。

私が小学生の時は戦争中で、大阪から和歌山県有田郡に集団疎開をしました。最初は家に帰りたくてたまらなかったのに、いつのまにか自分で決めて実行することや、集団の中でルールを守ることなどが身についたようです。

ー周囲の反応はいかがでした？

吹田：バットとグローブを持って毎日出勤する私を、「お茶やお花のお稽古に行くのなら...」と、母はたいへん嘆いていましたね（笑）。戦後、男女同権の時代になったのに、「女のくせに」という声や視線がありました。でもプロ野球選手として、私は胸を張っていました。思いっきり野球ができて嬉しかったです。

女性とスポーツ

スポーツは、今では年齢・性別を問わず健康スポーツとして広く親しまれています。オリンピック競技に女子マラソンが登場したのは1984年のロサンゼルス大会。柔道、レスリング、サッカー、重量挙げの女子選手の活躍ぶりが注目される今では想像しにくいかもしれませんが、ほんの少し前まで、女性が激しいスポーツをするのは無理と言われた時代がありました。

現在、オリンピック競技には女子の野球はありませんが、戦後すぐの日本に女子プロ野球があったことをご存知でしょうか。まだ女性のスポーツ人口が少なかった当時、プロ野球チームに在籍したことのある吹田アサ子さんにお話をうかがいました。

家から大阪天王寺公園球場へ通って日の出から日没まで、練習に明け暮れました。毎日が楽しくて、練習が厳しいとかきついとは思いませんでした。毎週のように他チームとの試合があったように思います。給料は3千円くらいだったでしょうか。

（※昭和24年 国家公務員短大卒初任給3,565円）



ー女子プロ野球は2年後に解散、ノンプロの社会人野球へ移行しますが、吹田さんはどのような道に？

吹田：女子プロ野球の存在は新鮮だったとはいえ、興行的な収益が上がらなかったようです。

私はプロ野球退団後の1950年1月に、高島屋の実業団ソフトボールチームに移りました。午後3時まで配属の仕事をし、その後練習が始まります。野球とソフトボールの違いや体格などの問題でレギュラーを降り、後半はマネージャーになって試合の交渉から選手の健康管理、下着の洗濯まで引き受け

つんでいきました。卒業後は京都市立第一高等女学校や二階堂体操塾で教鞭をとった後、大阪毎日新聞社に入社します。日本女子オリンピック大会や国際女子競技大会などに参加、100mや走幅跳などで世界記録を樹立、1928年のアムステルダムオリンピックでは、800mで銀メダルを獲得しました。

大正から昭和初期の間、まだ海外遠征が本格的になっていないときに、彼女は単身海を越えます。言葉や生活習慣の違うところで生活するだけでなく、競技者としての調整をしながら、日本からの期待にこたえなければいけません。日々の訓練の上に、強靱な精神力を必要としたのです。

女性初の本格的なアスリートとして、自分自身の記録を伸ばすとともに、当時全くなかった女性向けの競技方法を著し、後進を育てた人見絹枝さんは、1931年に肺炎で亡くなりました。享年24、早すぎる死でした。（村上）



ていました。裏方のプロに徹しました。

ー高島屋ソフトボール部での思い出は？

吹田：1953年に全国大会で優勝したことです。千葉での決勝戦の高揚感、会社全体で応援してくれた熱気など忘れられません。私が1956年に退団したあとも、チームはアメリカ遠征など活躍を続けていました。

ー野球を通じて得たものは？

吹田：1人ではできないことも、チームを組み、自分自身を厳しく律するリーダーと、賢いプレーンがいれば必ず達成できるということです。スター選手を支える全体と、裏方の力がどんなに大切か学びました。

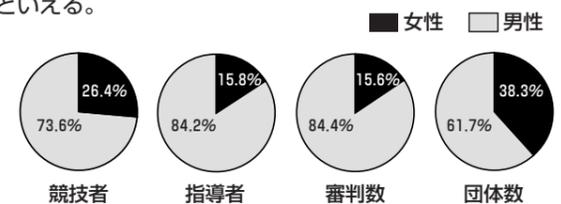
また、野球だけでなく仕事の上でも、「嘘をつかない」「清潔であること」「卑しくならない」ことが大事ですね。

ー将来、女子プロ野球リーグの復活を期待しますか？

吹田：できればいいですね。きっとプロとしてやり

ーデータでみる「スポーツ」の男女比ー

（財）日本オリンピック委員会の女性スポーツ委員会調査によると、スポーツ団体に登録する人数のうち、女性が占める割合は、「競技者」3割弱、「指導者」「審判」は1割5分強。競技団体の構成員は全体に女性が少数派といえる。



資料：2006年スポーツ団体の女性スポーツへの取り組みに関する調査結果

たい女性がいるはず。何ごとも男女差ではなく、個人差です。

高島屋ソフトボール時代、マネージメントは私がしていましたが、女性の監督もコーチもいませんでした。何度も提言しましたが、実現せず、残念でなりません。性別でなく能力が生かされるべきだと、強く思っています。

ースポーツとはあまり縁のなかった女性へ

吹田：スポーツが好きなら、是非チャレンジしてみてください。スポーツは「見る」より「する」に尽きますね。特に集団でするスポーツから得るものは大きいです。鍛えられますし、生涯の友だちにも出会いました。それは今も私の宝です。

女性スポーツ年表

- 1901 ● 「高等女学校令施行規則」制定。体育科の内容が普通体操および遊戯になる
- 1904 ● 久保田文相が女子の体育振興を強調
- 1906 ● 師範学校長会議で女子生徒に奨励すべきスポーツとして、なぎなた、水泳、弓、スケート、テニス、羽根つきがあげられる
- 1915 ● 女学生に袴の裾をくくったブルマーが普及する
- 1917 ● 愛媛県今治高等女学校で野球部が創設される
- 1923 ● 女子の水泳、テニス、バレーボールがはじめてオープン種目として採用される（第6回極東選手権競技大会）
- 1924 ● 女性のための日本初の全国的・総合的競技会である第1回日本女子オリンピック大会開催（健母会、中央運動社主催、大阪市立運動場）
- 1926 ● 第2回国際女子競技大会（ヨーテポリ）に日本女子スポーツ連盟が人見絹枝を派遣
- 1928 ● 第9回オリンピック大会（アムステルダム）に、日本から人見絹枝が参加、800m走で銀メダルを獲得
- 1947 ● 教育基本法公布（教育の機会、男女共学、女子への高等教育機関の開放など）
- 1950 ● 女子プロとして日本女子野球連盟発足（52年にプロから社会人野球に移行、71年に自然消滅）
- 1964 ● 第18回オリンピック大会（東京）で日本女子バレーボールチームが金メダルを獲得
- 1977 ● 樋口久子、全米女子プロゴルフ選手権で日本人初の優勝
- 1978 ● 日本初の女子だけのフルマラソン大会（多摩湖）に49人が参加
- 1985 ● 日本が女性差別撤廃条約に批准
- 1986 ● 全国大学女子軟式野球連盟、発足
- 1989 ● 新学習指導要領発表、高校の家庭科男女とも必修。保健体育男女差撤廃
- 1995 ● 東京六大学野球史上初の女性選手、J・ハーラー投手が初登板
- 1997 ● 日本人初の全米女子プロ野球リーグに鈴木慶子が参加
- 1997 ● 女性用に考案された「新相撲」の第1回全日本選手権大会開催
- 1999 ● イスラム圏の女性のための国際スポーツ競技会（テヘラン）開催、23カ国の選手が参加、男性には非公開
- 1999 ● 男女共同参画社会基本法成立
- 2000 ● 女子アメフトで鈴木弘子が初の日本人として米国プロリーグ（WPFL）入団テストに合格
- 2000 ● シドニーオリンピック大会で「女性の五輪100年」をテーマに聖火の最終ランナー全員が女性に。高橋尚子がマラソンで日本女子陸上競技初のオリンピック金メダルを獲得
- 2006 ● 第4回世界女性スポーツ会議を熊本市で開催

参考資料：目でみる女性スポーツ白書

女性アスリートの草分け

人見絹枝さん



芦屋市立図書館本館には、人見絹枝さんの著書が所蔵されています。「最新女子陸上競技法」「戦ふまで」「スパイクの跡」「ゴールに入る」「女子スポーツを語る」の5冊で、書庫の田尾文庫にあります。これらの貴重な本は、館内でのみ閲覧可能です。

人見絹枝さんは、日本女性初のオリンピックメダリストであり、ジャーナリストでした。岡山県出身で、高等女学校時代からテニス選手として県下の大会で優勝するなど頭角を現し、二階堂体操塾に入学後は本格的に競技選手として研鑽を